

令和6年度 千歳市市民評価会議議事録

| | | | |
|-----|----------------------------|----|-------------|
| 会議名 | 市民評価会議（第6回） | | |
| 日時 | 令和6年7月8日（月）14：00～16：20 | 場所 | 市役所本庁舎2階庁議室 |
| 出席者 | 市民評価委員 7名、アドバイザー 1名、事務局 3名 | | |

| | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価対象施策 | <ul style="list-style-type: none"> （1）道路の整備・管理 （2）地域と連携した除雪・排雪 （3）低所得者の福祉の充実 （4）アイヌの人たちの福祉の向上 （5）健康増進・疾病予防対策の充実 |
| 会議概要 | <p>5施策について、第2回及び第3回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。</p> <p>今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第8回市民評価会議に諮ることとした。</p> |

ヒアリング・評価内容

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（1）道路の整備・管理</p> <p>・評価結果「維持」</p> <p>【委員A】 2013年に締結された国際条約「水銀に関する水俣条約」が2020年に発効されたことから、これらを踏まえて計画的かつ、早期にLED化を進めてもらいたい。</p> <p>広報について、YouTubeなど新たな取組みを始めたことは評価できるが、技術の話だけではなく、こういった経緯で改良・修繕されたのかといった過程が見えるようにしたほうがよいのではないかと思う。</p> <p>【アドバイザー】 多様な広告媒体としてYouTubeの活用していることや、コスト削減のために新工法等の導入を進めていること、公式LINEを活用して市民協働を進めていることなどは、委員の総意として評価できる部分であると考えます。</p> <p>【委員B】 バリアフリー化の推進にあたっては駅周辺だけではなく、市全域を見据えたバリアフリー化を進めてもらいたい。</p> <p>【委員C】 道路整備の計画を立てるために5年に1度の点検を行い、そこから優先順位を決めているということだったので、次にどこの道路の整備を行う予定なのかということは把握できるのではないかと。</p> <p>【委員D】 先々の長期的な計画ではなくても、例えば、来月どこの道路や橋梁の工事をしますよというような周知があるだけでもよいと思う。</p> <p>【アドバイザー】 本施策の市民評価会議における方向性は「維持」としている。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートの内容も踏まえたうえで、方向性を「維持」とした理由としては、

- ・路面調査に基づき計画的に道路の改良・修繕の優先順位の設定が行われており、道路維持が適切に行われていることは評価できる。
- ・YouTube を活用した広報活動など、市民に対する周知の工夫が行われていることは評価できる。
- ・新たな工法を導入した道路修繕によりコスト削減に努めている点は評価できる。
- ・市民から道路補修箇所等の情報を LINE で通報する方法を導入することは、市民協働による施策の推進に繋がっている。

また、「意見」としては、

- ・街路灯に使用されている水銀灯については、水俣条約等を踏まえ、計画的かつ、早期に LED 化を進めてほしい。
- ・市民への広報活動は施工技術の紹介よりも、修繕に至った経緯（LINE による効果や計画に基づくもののかなど）や新たな工法によるコストの削減状況などに重点を置いてほしい。
- ・各種の調査に基づく道路整備計画の内容や工事着工前の事前周知など、市民への更なる周知に努めてほしい。
- ・バリアフリー化の推進にあたっては駅周辺にとどまらず、公共施設の周辺等、優先順位を定めながら市内各所に範囲を広げてほしい。

【委員 E】

「維持」とすることに関しては、異論はないということでしょうか。

－異議なし－

（2）地域と連携した除雪・排雪

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・機材や人材などの除雪体制を維持し、生活環境向上の取組が行われていることは評価できる。
- ・限られた台数での効率的な運用によって除排雪が行われていることは評価できる。
- ・IT 技術を用いて除雪車の位置情報の見える化を行っていることは評価できる。

一方で、「意見」としては、

- ・人材や車両の安定的な稼働に苦慮されている状況は理解するが、今後の人員確保や車両の定期的な更新に努めていただきたい。
- ・今後も市民が利用しやすい迅速な情報提供の仕組みづくりに努めていただきたい。
- ・自身の住む地域が行政頼りにならないよう、市民の意識改革を促すような取組も必要である。
- ・除雪体制の維持には、堆雪場の確保は重要であることから、代替地の確保に努めていただきたい。
- ・労働基準法の改正により、他業種への人材流出が懸念されることから、安定した体制維持に向け施策を推進していただきたい。

人員体制の部分やパートナーシップ除雪排雪支援制度を今後どのようにしていくかという点について意見が寄せられていた。

【委員 A】

現状として除雪体制は維持できており、また、DX 化も行っていることは評価できるが、今後も同様の体制が維持できるのかが懸念される場所である。

【アドバイザー】

今後というところでは、事業者の人員と車両の確保が懸念され、また、パートナーシップ除雪の取組が広がっていないというところである。

【委員E】

持続的な除雪体制の整備のため、人材や車両の確保に努めてほしい。

【委員F】

パートナーシップ除雪排雪支援制度は、他市町村で実施しているのは認識していたが、千歳市で実施しているのは知らなかった。

【委員C】

当日の説明にもあったが、パートナーシップ除雪排雪支援制度は、小型除雪機の貸出しと排雪用ダンプの貸出しの2本立てとなっており、この組み合わせがあまり良くない。

さらに小型ショベルを貸出してほしいという話もあるが、そこまでやってしまうと制度の趣旨と離れてしまう。

【委員E】

千歳市だけが同じようなやり方をしているのではなくて、道内の他市町村も同じような制度なのだろうか。

【アドバイザー】

例えば、札幌市では、1キロ当たりの除雪の単価を割り出して、行政負担と町内会負担を折半し、通常かかる費用の半分を町内会が負担することで、その地域の排雪までを行ってくれるというような制度設計になっている。

本制度に関する議論については、平成24年度の市民評価会議でも同様に話題となっており、それから10数年経っても同様の話題が出るということは、制度のあり方を見直していく必要がある。

【委員A】

雪堆積場については、新たな場所が整備できないと中心市街地や幹線道路の排雪ができないということになりかねない。

【委員E】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

(3) 低所得者の福祉の充実

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・ボランティアの協力を得ながら、充実した支援が行われていることは評価できる。
- ・いずれの事業も生活に困窮している方へのセーフティーネットとして大変重要であり、今後も着実に事業を進めていただきたい。
- ・低所得者の自立支援に向けた取組みを着実に進めてほしい。

一方で、「意見」としては、

- ・今後ますます高齢者割合が増加することが予想されることから、どのような手法で目標値を維持していくのが課題である。
- ・事業のアピールのためにも支援した成果を広く公表してもよいのではないか。
- ・人員も限りがあることから、IT技術の活用などによる相談業務の効率化にも着目してもら

いたい。

【委員E】

ヒアリングの中でも、指標については話題が挙がったが、代案を出すのは難しい。

【委員D】

困窮者の支援について、住宅や食料などの支援は充実していると思うが、支援に向かうための「足」はどのように支援しているかが気になった。

【委員A】

支援メニューは豊富でフルパッケージであり、評価できる。

【委員F】

相談件数を指標とするのがどうなのかというところは気になる。

【アドバイザー】

平成30年に社会福祉法が改正され、「重層的支援体制整備事業」の体制の整備が進められてきており、アウトリーチ型の支援により、支援者が積極的に関わっていくという支援が必要になってきている。

北海道内の自治体ではなかなか進んでいない実態があるが、向こう3年以内には進めていかなければいけない状況になる。

【委員D】

「重層的支援体制整備事業」については、社会福祉協議会と千歳市とで協議を進めているところである。

【委員E】

アウトリーチ型の支援となると、ヒューマンリソースも必要となってくる。

人員の体制にも限りがあることから、IT技術の活用などにより、相談業務の効率化にも着目してもらいたい。

【委員D】

相談する市民側としては、困窮しているというような状況を口にすること自体をストレスに感じてしまい、相談がしにくい状況になっている場合も考えられることから、ITを活用するのは良いと考える。

【委員E】

「維持」とすることに関しては、異論はないということでよいか。

－異議なし－

(4) アイヌの人たちの福祉の充実

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・アイヌの人たちの福祉のみならず、そのエリアのコミュニティ形成にも貢献している事業であり評価できる。
- ・他施策との連携、指標の見直しなど、実情にあわせて施策を推進していることが確認でき、評価できる。
- ・アイヌの人たちからの相談に対応する相談窓口の設置や資金の貸付などの福祉面における支援体制は今後も維持する必要がある。

一方で、「意見」としては、

- ・地域のコミュニティの場としての活動拠点であり、施設の維持管理を適切に行ってほしい。

- ・アイヌに関する施策は国や道の動向に影響を受ける要素も多いと思われることから、これらの動向も踏まえながら事業を進めていただきたい。
- ・アイヌへの理解を深めてもらうための市民への周知を今後も定期的に行うことが必要である。
- ・市の内部や関係団体などとも連携を図りながら、効果的に事業を進めていただきたい。

【委員E】

アイヌ政策について、主として全体を統括している課はどこか。

【事務局】

国への交付金に係る手続きや千歳アイヌ協会とのやり取りをメインで行っているのは、企画部主幹（アイヌ政策推進担当）である。

【委員D】

文化を守るというところの施策があって、その文化を守るが故に今の生活水準と見合わないところが出てくると、そこで福祉の支援が必要になると思われるので、関係課や関係機関と連動して進めてほしい。

アイヌの人たちの考え方を守らなければいけないということは理解しつつも、その生活様式自体が変わってきており、その狭間に立たされている人が出てくると思うので、そういった面での精神的なケアというのにも必要になってくると考える。

【アドバイザー】

時代的な背景もあり、現在は貸付を使って何かをしなければいけないといった人は少ない。

これが昭和40年代や50年代とかだと、例えばチセで生活していた人が、建築基準法違反だからとの理由で、それを取り壊して家を建てる時に貸付を利用して家やプレハブを建てるということがあったが、施策が生まれた当時と今とでは、大きな違いがある。

【委員A】

千歳では、学校教育の場においてもアイヌ文化に触れる機会があるので、文化に関する理解度は成熟していると思う。

【アドバイザー】

むしろ、そういった教育がされていながら、どうしてこの施策が未だにあるのかというところに違和感が出てきてしまうと、なぜアイヌの人たちだけが特別なのかということにもなりかねないので、その理解の醸成は重要である。

【委員E】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

(5) 健康増進・疾病予防対策の充実

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・しっかりとした事業展開が行われており、また、あわせて各種啓発活動が行われていることは評価できる。
- ・ウォーキングマップや健康関連イベントの実施など、積極的に取り組まれていることが評価できる。
- ・受診率向上に向けた様々な取組を、工夫を凝らしながら進めていることが評価できる。
- ・いずれの事業も市民の心身の健康を維持していくうえで欠くことのできない事業であり、今後も着実に進める必要がある。

- ・データベースを活用し、市民の健康維持に積極的に関与していることは評価できる。
- 一方で、「意見」としては、
- ・健診の啓発協力企業数が少ないのではないか。
 - ・市民の立場では、自分がどれに該当するのかわからなかったり、迷ってしまったりということもあると思われることから、検診や接種など市民に向けたわかりやすい情報の提供や周知を継続的に実施することが必要である。
 - ・市民のQOL向上への寄与並びに医療費の抑制の観点からも施策の展開に努めていただきたい。
 - ・市民アンケートにおける関心も高いことから、数値的な評価ができる手法を検討してもらいたい。
 - ・若い世代への展開を考慮すると、SNS やショートメッセージなどのデジタルツールの活用も重要である。
 - ・国保データベースとの連携や活用による未病対策も重要であることから、今後も推進してほしい。

【委員C】

自殺対策事業として、就職などにより生活環境等が変わる時期である 23 歳の方にアプローチしているといった対応は丁寧であり、評価できる。

【委員A】

市民まちづくりアンケートでは高い関心があるものの、市民ニーズをどのように捉えて、施策に反映できているのかは見えてこなかった。

【委員D】

医療機関との連携をどのように図っているのかというところが見えない。

疾病の予防ということであれば、医療との関わりは切っても切り離せないと思うので、そこも加えてもらいたい。

【委員E】

「維持」とすることに関しては、異論はないということでよいか。

－異議なし－